

第12回 神奈川県移動性（モビリティ）向上委員会 議事要旨

1. 日 時：平成24年7月17日（火）18：30～20：00

2. 場 所：横浜第二合同庁舎 共用第一会議室

3. 議 事：

(1) 第11回委員会の議事要旨

- ・特に意見はなく、承認された。

(2) 議題1：首都圏における新たな渋滞対策検討について

- ・首都圏渋滞ボトルネック協議会（以下、「ボトルネック協議会」）の指標で、神奈川県において選定される箇所（素案）について、実感とあっているとの承認を得た。
なお、バス協会、トラック協会、タクシー協会については、持ち帰って検討することとなっている。
- ・各道路管理者から意見のあった箇所で、ボトルネック箇所（素案）に選定されない箇所については、神奈川県移動性（モビリティ）向上委員会（以下、「移動性向上委員会」）にて取り扱いを検討していくことで承認された。また、意見の照会はその都度実施していくことで承認された。

Q1：高速道路のボトルネック箇所（素案）は対象に入っているのか。（神奈川県）

A：高速道路のボトルネックの考え方については、現在検討段階のため、現段階の資料では示していない。今回は一般道を中心に考えてほしい。（事務局）

Q2：ボトルネック協議会とこれまでの移動性向上委員会との関係はどのようになっているのか。移動性向上委員会の中でボトルネック協議会の内容を検討することとなるのか。（東日本高速 京浜管理）

A：ボトルネック協議会での内容を本委員会で検討することは考えていない。ただし、ボトルネック協議会と移動性向上委員会の検討内容については関係性が深いため、移動性向上委員会についてはこれまで通り検討を進めるが、ボトルネック協議会の情報についてはその都度提供していくものと考えている。ボトルネック協議会と移動性向上委員会が並行して動くと考えて頂きたい。（事務局）

Q3：ボトルネック箇所（素案）の選定方法はH22 センサスをベースであるが、首都高速は今年1月より距離別料金になっており、その影響で街路の渋滞が発生している。具体的には浜川崎出口等で渋滞が発生しているが、このような箇所は含まれてきていない。今後、ネットワークの整備、料金体系の変更等の条件が変更した場合、次回のセンサスデータを用いながら見直しを行う予定なのか、または、今回のパブコメでそのような場所が上がってきた場合に取り扱いを検討していくものなのか。どのような形を予定しているのか。（首都高速）

A：パブコメのやり方についてはボトルネック協議会で検討中である。ネットワーク等交通の状況が変わった場合の、首都圏ボトルネック協議会の対応については、現時点では示されていないが、移動性向上委員会の検討にあたっては、今後も新たなデータ等での状況変化を確認していきたいと考えている。浜川崎については移動性向上委員会

で取り扱っていくものと思う。(事務局)

A：首都高速の料金体系については大きく変化したものであり、浜川崎のような場所については、今後も移動性向上委員会の中で議論し、新しいデータに更新していくものであると思う。ボトルネック協議会の動きを見ながら、落ちがないように見ていくこと、また、ネットワーク等の状況変化もあるので、データ年度等の取り扱いも慎重に行いつつどの時点のデータを使っているかを説明できるようにして頂きたい。(委員長)

Q4：バス協会としてもボトルネック箇所(案)が実感とあっているか、現場の意見を聞き、改めて意見を出したいと思うがよろしいか。(バス協会)

A：ぜひ確認いただきたい。(事務局)

(3) 議題2：「今後の検討方針(案)について」

- ・要対策箇所・要対策候補箇所は、ボトルネック箇所(素案)に該当しない箇所も含め、今後も神奈川県移動性向上委員会にて、フォローアップを実施することとし、首都圏ボトルネック協議会の指標との整合性は確認していくことで承認された。
- ・要対策箇所・要対策候補箇所に該当しないボトルネック箇所(素案)については、今後、これまでの検討も踏まえ移動性向上委員会での位置づけを検討していくことで承認された。
- ・上記の状況を踏まえ、必要に応じて要対策箇所・要対策候補箇所の選定方法等の見直しを検討していくことで承認された。

Q5：ボトルネック協議会と移動性向上委員会の抽出箇所の整合は図っていただきたいとの思いはあるが、選定の指標が複雑になってきていないか。市民に分かりやすく整理した指標にして頂きたい(川崎市)

A：ご指摘のとおり複雑なものになっている。これについては今後選定方法の見直しを含め検討していきたい(事務局)

A：長い時間をかけて選定してきた経緯もあり、シンプルにすればよいというものではない。少しずつ見直しをしていけば良いのではないか。これまで検討してきたことについては配慮して頂きたい。(委員長)

Q6：議題1で示しているボトルネック箇所(素案)は、実感とあっていると感じる。ボトルネック箇所(案)で新たに抽出された箇所は本委員会でも要対策箇所と位置付けしても良いのではと感じている。本委員会でも選定された要対策箇所、要対策候補箇所は、既に動いている本市の事業計画とあわせていく必要もあるので、引き続きフォローアップをお願いしたい。また、ボトルネック協議会の指標は一般の方にわかりにくいと思われるため、わかりやすくしていただくと良いと思う。(相模原市)

A：実感にあっているとのご意見ありがとうございます。新たに抽出された箇所は今後詳細に分析した上で、要対策箇所として扱うかは検討していく予定である。指標についてのご意見は、ボトルネック協議会に伝えたい。(事務局)

Q7：新たに抽出された107箇所を吟味していく作業イメージは持っているのか。(委員長)

A：今まで同様のデータの整理やアンケート結果で整理したその他指摘箇所との整合等を図りながら、どのように進めていくかを次回の検討会でお示ししたい。(事務局)

A：道路の状況は、ネットワーク整備、需要、料金体系など状況が変化していく度に変わっていくものなので、その場のしのごではなく、統一したやり方・方法で客観的な指標を検討してほしい。(委員長)

Q8：プロセスや客観データとあわせ、市民感覚と合っていることが重要である。(横浜市)

A：事務局としても重要と考えている。市民感覚にあう指標を検討していく。(事務局)

A：渋滞については、交通工学的な交通の密度、流量、速度等の数字による説明と実感の違いがある。道路のメカニズムについて一般の方に理解を求めるものと我々の指標見直しでやっていく部分がある。市民の実感とあうにはデータの精度の問題もあると思うが、基本的には速度で示すことがわかりやすい説明なのではないか。(委員長)

(3) その他について

- ・本委員会の資料は、HPでの公開を予定しているが、次回の首都圏ボトルネック協議会(7/26開催)以降にHP掲示を予定している。(事務局)

以上